

令和6年能登半島地震 被災地応援職員を派遣

令和6年1月1日に発生した能登半島地震の被災地支援のため、石川県の珠洲市災害ボランティアセンターに職員を派遣し、現地調査等の業務に従事しました。

<現地調査の内容>

被災者からのボランティア依頼に対して、被災者の方とともに被災現場で活動内容を確認し、作業に係る危険度を判断しながら、必要となるボランティアの人員や資材の調査を行いました。



被災地派遣を振り返って

【地域福祉推進課 俣野主事】

○派遣期間 5月26日～6月1日

現地の様子は想像したものとは大きく異なり、未だにインフラが復旧しておらず、被災した建物が連なり、発生から半年が経過したとは思えない様子でした。

また、多くの住民の方々は、被災により住まいや仕事を失い、生活環境が大きく変化したことで、今後の生活について先行きが見えず、不安を感じながら暮らしていました。

多くの住民が避難し、地域のつながりも希薄化する中では、単にインフラを復旧するだけでなく、今後の地域課題を見据えながら被災者と向かい合い、寄り添う支援を続けていかなければならないと感じました。



現地調査風景

【企画総務課 梶原主事】

○派遣期間 6月19日～6月25日

毎日珠洲市社協に支援の物資が届く様子や、炊き出しを行っている団体、被災地の病院・小学校等で訪問コンサートを行うオーケストラ団体などを見て、人々の温かさを感じる場面がありました。

また一方で、実際に被災地を見て、すごい状態だなとか、自分にできることはあるのだろうかとも思いました。ただ、ボランティア団体等の活動に触れ、自分にできることを一生懸命に行っている姿は、本当に感動しましたし、これからも自分にできることをやっていきたいと思いました。



珠洲市民から寄せられた感謝メッセージ



珠洲市災害ボランティアセンター入口



珠洲市災害ボランティアセンター内の様子



隆起したマンホール